

(注10) 正確には、手段の「手」が動作主体の [+ human] を制約するというべきであろう。「ける」との対立で「うつ」や「なぐる」などが一群をなすのであり、その弁別的な特徴である〈手による打撃〉が、「手」を有さない「動物」を排除するのである。

ちなみに、「ける」の動作主体は [+ animate] である。

(i) 馬が 後足で ける。

(注11) 文例(58)のように、状況からすれば明らかに「なぐる」でいうべきところを、被打撃者イコール話者が女性であるために「ぶつ」を使用したとも思える。だとすれば、両語の違いは行為者の差というより、むしろ位相的な差に基づくといえ

よう。

(注12) 「演説」がI, 「聴衆」がOである。

なお、小稿は格文法に学んだところが多いが、それに依る考察は注記の部分に集中させたことを銘記しておく。

言語経歴：1955年5月、名古屋に生まれる。

18歳まで名古屋市、23歳まで松本市、24歳まで川崎市、24歳～横浜市港北区、現在に至る。

(東京都立大学院生)

## はぐ・そぐ

鈴木 さかゑ

### 1. はじめに

本体からある部分を離脱させることを表わす語としては「けずる」「そぐ」「はがす」「はぐ」「むく」等々の語があるが、その中から「そぐ」と「はぐ」をとりあげて、日常どのような使い方をしているのか考察し、そこから両語の意味特徴の共通点、相異点を探っていきたい。

### 2. 分析

#### 2. 1. 対象物

- (1) ふとんを はぐ。
- (2) \*ふとんを そぐ。
- (3) きものを はぐ。
- (4) \*きものを そぐ。
- (5) つつみを はぐ。
- (6) \*つつみを そぐ。
- (7) 殻を はぐ。
- (8) \*殻を そぐ。
- (9) 皮を はぐ。
- (10) 皮を そぐ。
- (11) \*肉を はぐ。
- (12) 肉を そぐ。
- (13) \*身を はぐ。
- (14) 身を そぐ。
- (15) \*骨を はぐ。

- (16) 骨を そぐ。
- (17) \*耳を はぐ。
- (18) 耳を そぐ。
- (19) \*髪を はぐ。
- (20) 髪を そぐ。
- (21) \*興味を はぐ。
- (22) 興味を そぐ。
- (23) 官位を はぐ。
- (24) \*官位を そぐ。

上記の例文から、「そぐ」と「はぐ」の対象物になりえるものを分類してみる。

「はぐ」の対象物になりえるもの。

エビやカニの殻、木の皮、動物の皮、頭の皮（他に果物の皮や背中の皮等生物体の表皮にあたるもの）

布団、着物、くつ

官位

屋根（他にかから）

ただし、くつについては

- (25) 死人のくつを はいだ。（野火）

の例文から抜きだしたもので特殊な状況の場合に限られる。

「そぐ」の対象物になりえるもの。

肉、身、骨、皮、髪、等肉体の一部  
興味、氣勢

木、木の皮、野菜（ごぼう）、竹

## 2. 2. 構文

「はぐ」「そぐ」は二語とも他動詞であり(1)~(24)までの例文でもわかるとおりヲ格をとる。またこれらは全てカラ格をとることもできる。その場合〔対象物ヲ 本体カラ はぐ/そぐ〕となる。

(26) ふとんを 人から はぐ。

(27) 肉を 鶏から そぐ。

ただしこれらの語は対象物が限られているため本体をわざわざ述べないことが当然という例も多いようである。

(28) 木の皮を はぐ。

(29) 木の皮を 木から はぐ。

(1) ふとんを はぐ。

(30) ふとんを 寝ている人から はぐ。

## 2. 3. 主体、手段

主体は例文から人間と考えられるが、手を自由に使うことができるものならば動物の場合も「はぐ」の主体にはなりえる。

(31) サルが バナナの皮を はぐ。

(32) \*サルが 木の皮を そぐ。

手段としては、指、手、手で使用する包丁やナイフなどの道具を用いた場合等が考えられる。

(33) しらみの皮を 槍で はぐ。(ことわざ)

(34) ナイフで 鹿の皮を そぐ。

抽象的な使われ方として(22)(23)のような例もある。

(22) 興味を そぐ。

(23) 官位を はぐ。

これは、本体からそのある部分を離脱させるという意味の抽象的な表現であると考えられる。

手や道具の使えない動物について、「そぐ」「はぐ」は使えるだろうか。

(35) ぞうが 鼻で バナナの皮を はいだ。

(36) オオカミが キバで 鹿の皮を はいだ。

機能が手や指と同じものについては「はぐ」は使えそうである。

(37) \*ぞうが 鼻で 木の皮を そいだ。

(38) オオカミが キバで 鹿の皮を そいだ。

「そぐ」に関しては(37)のように不自然なものもある。これは「はぐ」は手と道具を手段としているが、「そぐ」は主に道具を手段としているせいだと考えられる。例文からみて「そぐ」には何か鋭利なものが手段として使われやすい。

(39) \*肉を 手で そぐ。

## 2. 4. 対象物と本体との関係

2.1.で述べた対象物とその本体の関係について、その状態によってみていきたい。

「はぐ」の対象物は本体の一部ではあるが密着してはいないもの、

(40) エビの殻を はぐ。

もしくは、対象物の部分だけ離れやすい状態になっているもの、

(41) みかんの皮を はぐ。

(42) バナナの皮を はぐ。

あるいは、その部分を離すことが通常の用いられ方であるもの、

(43) りんごの皮を はぐ。

である。

しかし、上記の(41)~(43)の例を見ると共通語一般には「むく」という表現が使われる。「はぐ」という表現でも不自然ではないが、その場合、食べるために皮を取るといふより例えばかんづめにするために大量のくだものの皮を取り去る場合、といった時に使う方が自然である。

時には、本体と対象物が全く別のものであることもある。

(1) ふとんを はぐ。

「そぐ」の対象物は、本体そのもので、その行為は本体から部分を離脱させることである。

(12) 肉を そぐ。

(20) 髪を そぐ。

ただし、

(22) 興味を そぐ。

(44) 氣勢を そぐ。

の場合は、すっかり無くしてしまうとか、省く、へらすの意味を持つ。そもそもは部分が少しけずられるというニュアンスで用いられていたのではないだろうか。

いずれにせよ、「はぐ」とは違って本体と全く別のものを対象物としているということはない。

## 2. 5. 行為に伴う力、視点

「はぐ」は他の類義語「はがす」などに比べて、多少ムリのともなう力のいる行為である。

(1) ふとんを はぐ。

(45) ふとんを はがす。

を比較してみると、(1)の方は頭からすっぽりとふとんをかぶって手で押えているのを無理矢理とりのけるよ

うな行為であり、(45)の方は比較のおとなしくふとんをめくる行為である。

- (46) 「早く起きろ」と ふとんを はいだ。
  - (47) 「早く起きろ」と ふとんを はがした。
  - (48) 起こさないように 静かに ふとんを はがした。
  - (49) 起こさないように 静かに ふとんを はいだ。
- (46)と(48)にくらべて(47)と(49)は使えないことはないが少々ニュアンスが違うように思う。「はぐ」も「はがす」も焦点は「除去する」ことにある。そして「はぐ」は多少強い力のいる行為なので、「除去する」ために対象物が破れたり本体に傷がついたりすることがある。
- (5) つつみを はぐ。
  - (9) 皮を はぐ。
  - (11) みかんの皮を はぐ。

(50) 壁紙を はぐ。

「そぐ」の場合は「はぐ」よりもさらに力強くあるいは勢いを伴って行為する。また、たいていの場合、刃物を使用しそれを斜めに行為するイメージがある。

- (51) 木を そいで はしを 作る。
- (52) ごぼうを そぐ。

そして、その焦点は「除去する」ことと「細かく分離させること」の二点がある。

- (53) 肉を そいで 干肉を 作る。

そいだ部分をすててしまうのではなく、使用するので、これは分離させることに目的がある。

### 3. まとめ

以上、2で分析したものを表にまとめてみる。

|  |  | は ぐ                  | そ ぐ                            |
|--|--|----------------------|--------------------------------|
| 対<br>象<br>物                                    | 動物の表皮<br>植物の表皮<br>衣服・布団<br>肉 体<br>官 位<br>興味、気勢 | ○<br>○<br>○<br><br>○ | ○<br>○(木、竹、一部野菜)<br><br>○<br>○ |
| 主<br>体   | 人<br>動 物                                       | ○<br>○(手の機能を持ったもの)   | ○<br>○(キバを持ったもの)               |
| 手<br>段   | 手、指<br>刃 物                                     | ○<br>○               | ○                              |
| 対<br>象<br>物<br>と<br>本<br>体<br>と<br>の<br>関<br>係 | 本体そのものだが分離層がある<br>本体そのものだが分離層がない<br><br>本体とは別  | ○<br><br>○           | ○<br>○                         |
| 力  | 強く勢いがある<br>強くなくてもいい                            | ○<br>○               | ○                              |
| 目<br>的   | 除去すること<br>分離させること                              | ○                    | ○<br>○                         |

「はぐ」の主な特徴は、対象物の表面を覆っているもの(本体の一部もしくは接しているもの)をむりやり除去する行為。

「そぐ」の主な特徴は、本体そのものを主に刃物を使用して力をこめて一部ずつ分離する(もしくは除去する)行為。

のだが、これらの語句を分析するとどうしても「はがす」や「むく」等の語との関連の問題がでてくる。今回は敢えてそれらを無視して考察したために、分析に多少無理があったように思う。また機会があったらそれらの語も含めて考えてみたいと思う。

### 4. おわりに

今回、「はぐ」と「そぐ」についての考察を試みた

言語経歴：1956年1月浜松市生 0~20才  
浜松市 20才~ 川崎市高津区  
(東京都立大学学生)